

森のふくろうへの独言

柳田國男生誕百五十年頌 弐

小田 富英

届くか

わが無音の独言

聴けるか 翁の再生の詩^{うた}

翁生まれて百五十

日出度いわけでもなからうが

今ここにいたら何と言う

時々想いをめぐらすのも悪くない

百五十とはそういう数だ

では

無音の詩片でそれが可能か

試してみるのも悪くはなからう

君は

翁が

疑惑こそ我々が生きていく最大の武器

となんどもなんども説いていたのを知っているか

疑惑とは

暗闇に生きるかたり人^{ひと}に向けられた言葉でなく

くりくりとした瞳から

投げかけられるまっすぐな問いを言う

翁自身も

いくつかの

小さな子ときの問いを抱え

満たされないまま

春秋を重ね

くさらずあきらめず

比べたり重ねたり

集めたり求めたり

それでも

知り得ないことが

疑惑よりもわりわりと多いと覺り

相統すべきは無知

と日の出の世代に伝えている

私たちもまた

なんにも知らずにいたことを相統せねば

日の暮れぬうちに のぞみあるうちに

年刊

第41集

詩集 ふくい 2025



福井県詩人懇話会